

秋田市旭川筋土地改良区

受益面積 363ha

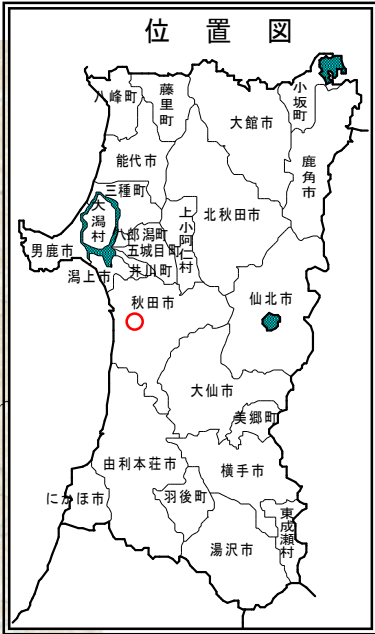
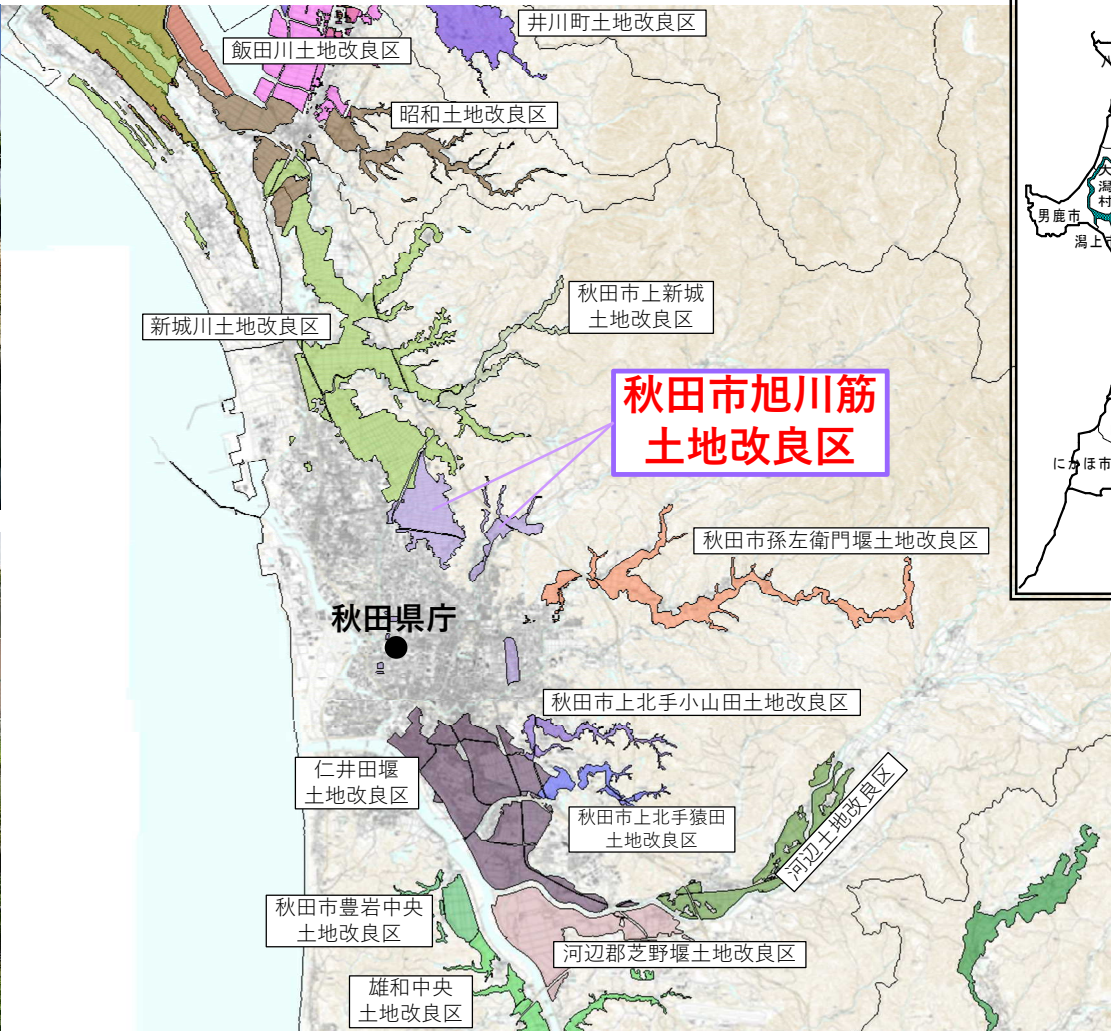
- 秋田市内の大平山から流れる一級河川旭川を主な水源として取水し、農業用水の供給等を担う土地改良区である。
- 主な受益地は旭川中流域の添川、濁川、そして外旭川である。



添川頭首工



穴罫円形分水工



【内 容】

■ 地区の構成

■ 農業水利システム【泉堰・湯沢・添川・濁川・矢坂】

- ・（各施設の状況）泉堰頭首工・矢坂揚水機場
- ・（各施設の状況）東台沢ため池
- ・（各施設の状況）泉堰・穴堰幹線水路
- ・（地域の歴史的施設）旭川上流部：補陀寺

■ 農業水利システム【穴堰地区】

- ・（各施設の状況）添川頭首工
- ・（特徴的な施設）隧道・円形分水工
- ・（特徴的な施設）上流水位一定型自動ゲート
- ・（地域の歴史）穴堰・手形堰

■ 施設の維持保全

作 成	秋田県 農業農村整備等技術検討委員会
協 力	・ 秋田市旭川筋土地改良区 ・ 秋田市 ・ 秋田県土地改良事業団体連合会
作成経緯	ver. 1.0 令和 7 年 3 月
基本凡例	 ため池  頭首工  揚水機場  分水工  用水路  河川又は排水路 ※ 資料作成の都合上、必ずしもこれらのとおりの表記となっていない場合がある
出 典	・ 秋田県水土里情報システムのレイヤを使用したものは次のとおり 地形図：「測量法に基づく国土地理院長承認（使用） R6JHs 74-GISMAP59536号」 航空写真：「© NTT InfraNet, JAXA」 衛星写真：「© NTT InfraNet, Maxar Technologies.」 ・ その他土地改良区提供資料など
備 考	本資料は、秋田県の農業を支える基盤であり、地域資源でもある農業水利施設について、土地改良区毎にその構成、歴史、維持管理等の概略を示し、土地改良区の組合員のみならず地域住民の皆様に対し広く周知するものです。 これにより、各地域の農業水利施設を保全管理することの重要性について理解を深めていただき、農業水利施設の持続的な機能発揮と秋田県の農業の発展の一助となることを目指しています。 本資料については、現地調査に加え、水土里情報システム内の資料、過去に実施した事業の資料、土地改良区からの提供資料、土地改良区からの聞き取りなどをベースに作成していることから、時点が古い情報や現状と比較し正確ではない情報が含まれていることがあります。このため、本資料を閲覧される方に置かれましては、このことを予め御了知いただくとともに、本資料を利用すること等により生じるトラブルや損害等については、秋田県ではその責任を負いかねますので、予めご了承ください。

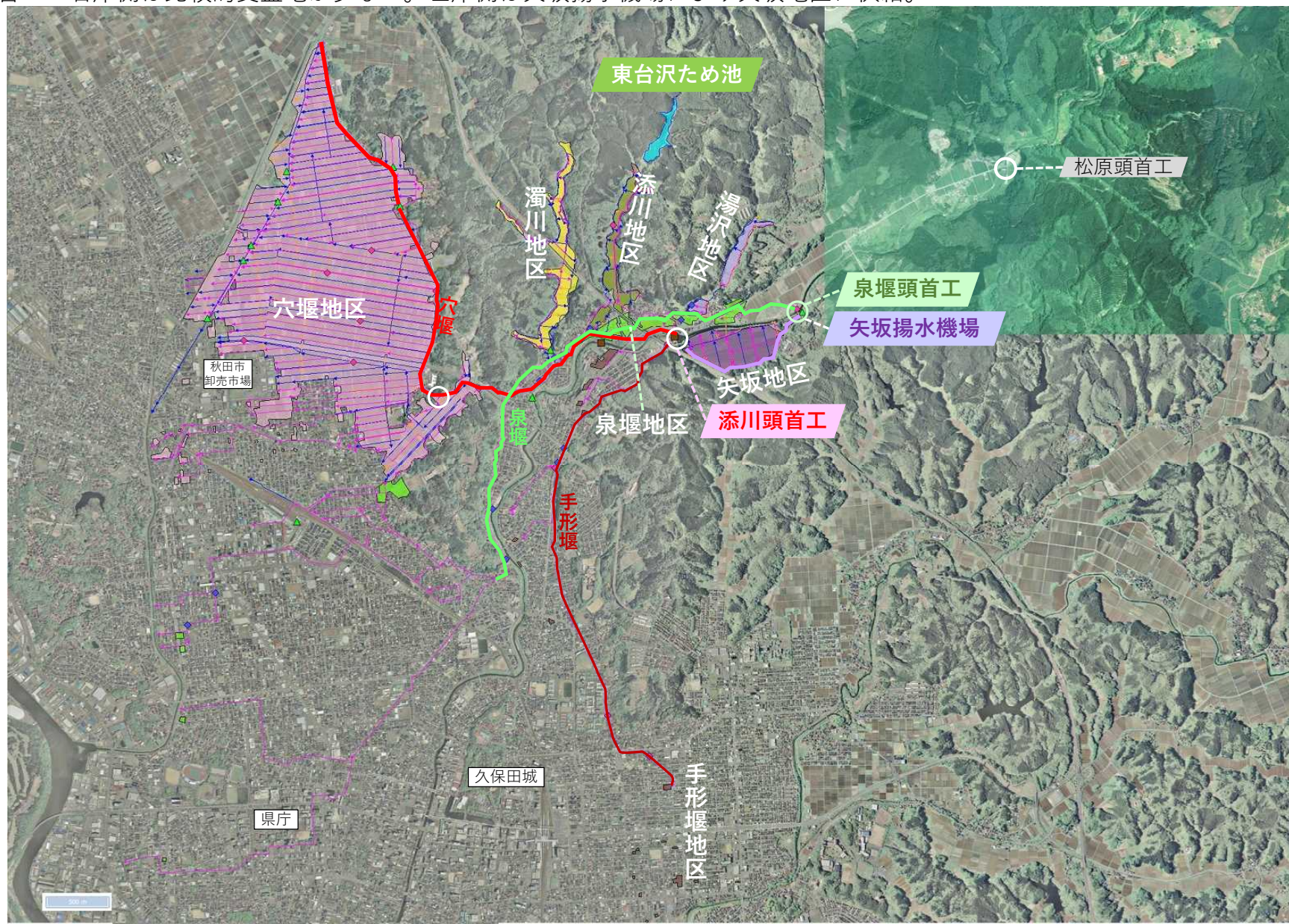
穴堰地区（外旭川地区）



地区の構成

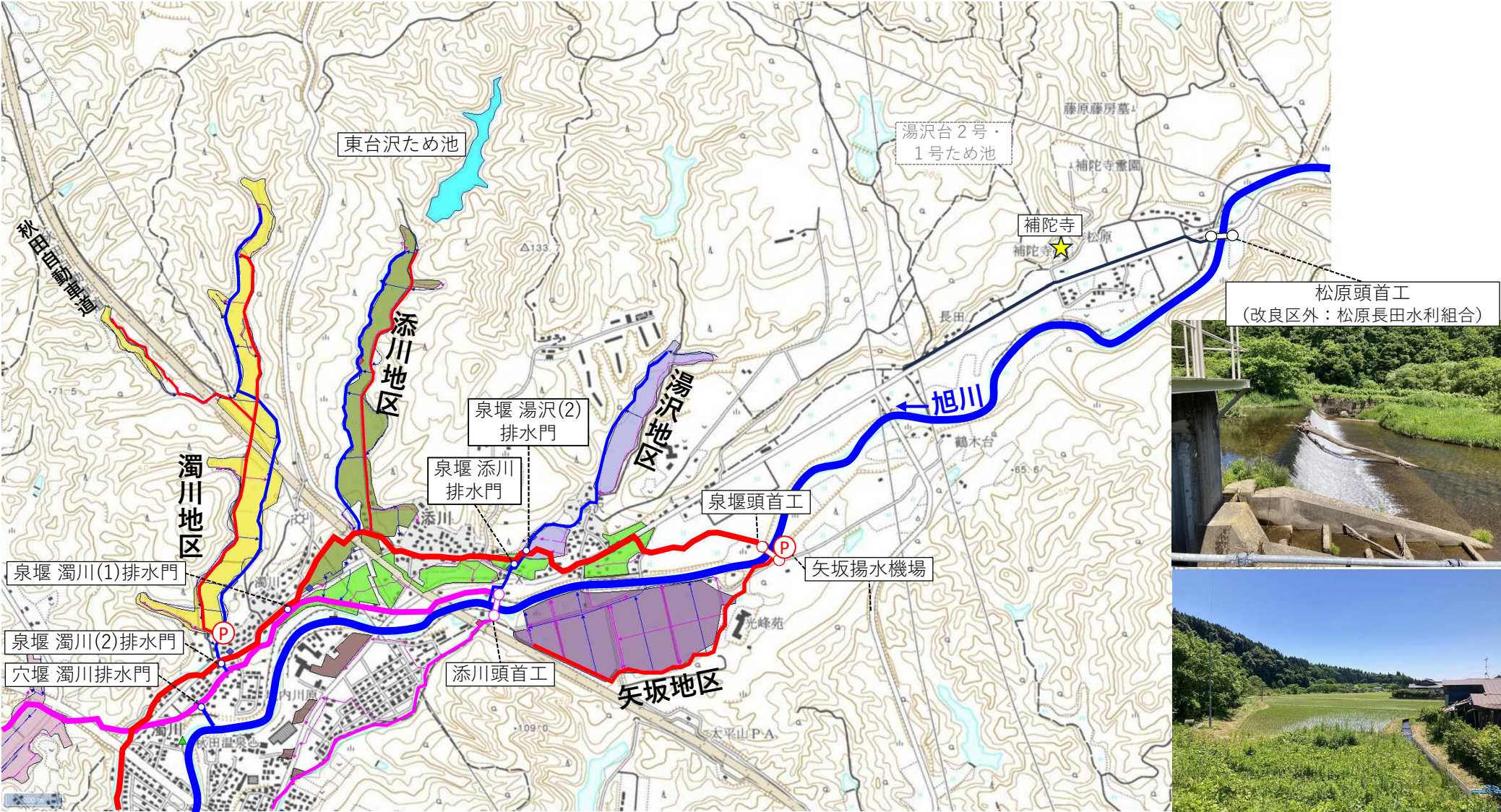
穴堰・泉堰・手形堰・矢坂・濁川・添川・湯沢の7地区から構成される

- 主要取水施設は添川頭首工であり右岸側は穴堰幹線水路により外旭川地域に導水。左岸側は手形堰幹線水路により秋田市街地へ。
- 泉堰頭首工の右岸側は比較的受益地が少ない。左岸側は矢坂揚水機場により矢坂地区に供給。



農業水利システム 泉堰・湯沢・添川・濁川・矢坂 ため池・固定堰・揚水機から開水路に導水

- 受益上流部の泉堰・湯沢・添川・濁川・矢坂の各地区では、ため池・固定堰・揚水機などから取水し、開水路により導水する供給主導型システムとなっている。
- 特に泉堰頭首工地点においては、右岸側から泉堰幹線水路に、左岸側から矢坂地区に導水される。



(各施設の状況)

泉堰頭首工

矢坂揚水機場

- 旭川に設置された固定堰である泉堰頭首工では、右岸側において泉堰幹線水路へ導水され、左岸側において矢坂揚水機場が取水する。
- 固定堰地点において泉堰幹線水路へは自然取水形式であるが、途中の取水水門において取水量の調整が行われる。

泉堰頭首工



矢坂地区圃場整備 竣工記念碑

この地区は秋田市添川の一部にして水源は現在取水地上流一、二軒の旭川上流より自然取水し二十、七ヘクタールを維持してきましたが、取水付近の河床の変化が著しく取水するに非常に困難となり、また地区に通ずる橋は木橋のため水害により幾度の流失にあい、水田、農道も不整備により大型機械の導入もできず労力の経費で効率の悪い状態であったところ、地区の総意で秋田市旭川筋土地改良区に矢坂地区として地域編入し地区員の協力のもとより各関係機関のご指導とご援助により工事の計画実施しここにすべての完成を見たのであります。

工事の経緯

- 一、昭和四十年 県単圃場整備事業 二千六百万円
- 一、昭和五十四年 農道橋 五千二百万円
- 一、昭和六十年 小規模排水対策特別事業 三千三百万円

昭和六十一年十月
秋田市旭川筋土地改良区矢坂地区



泉堰幹線水路：取水水門



矢坂揚水機場



(各施設の状況)

東台沢ため池

- 東台沢ため池は均一型アースダム形式のため池であり、添川地区等の用水源である。
- 令和4年度に遠方監視装置を設置している。



河川	堤高	堤長	有効 貯水量
旭川支川	13.8 m	65 m	230千m3



(各施設の状況)

泉堰・穴堰幹線水路



【補陀寺】

亀象山補陀寺と号し、秋田最古の曹洞宗禅寺といわれ、大本山総持寺の直末である。

総持寺二十五哲のひとり、月泉良印和尚が、正平四年（1349）大館の松原に安東氏の菩提寺としてたてたのが前身といわれる。この寺の初期の歴史は明らかでないが、湊安東氏の外護により栄えたと思われる。

徳川時代に入ると、藩主佐竹氏の庇護をうけた。東北にその末寺が多く、東北の中本山といわれている。

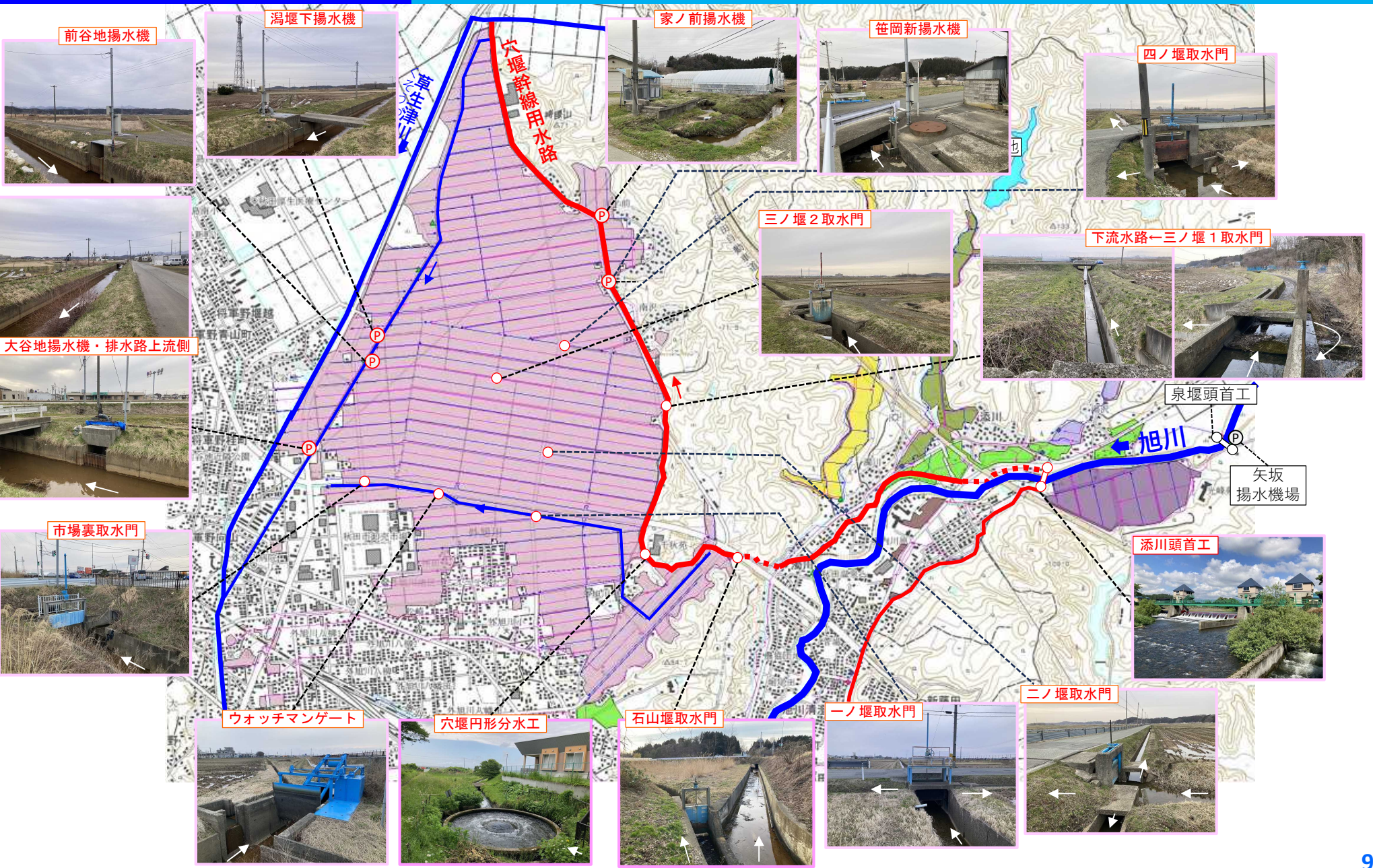
裏山にある宝篋印塔は、藤原藤房の墓と伝えられている。
市制施行九十周年記念 昭和五十四年 秋田市
(秋田市による看板より引用)



補陀寺前の菅江真澄の道標柱より
松原の松の千とせもよろづ代も
つきせざらまし 亀の池水



農業水利システム 穴堰地区 頭首工から開水路を通じた供給主導型システム



(各施設の状況)

添川頭首工

- 添川頭首工は旭川から取水し、穴堰地区及び手形堰地区に用水供給を行う。
- 頭首工の左岸から取水し、右岸側の穴堰地区、左岸側の手形堰地区へ分水する。
- 右岸側の穴堰地区に対しては、サイフォンにより河川を横断する。



(特徴的な施設) 隧道・円形分水工

- 穴堰地区では、その名のとおり「穴堰」という素掘の隧道により外旭川地域に導水していたが、老朽化のため県営事業により更新した。
- 隧道の先には円形分水工が現存している。

「穴堰」の隧道



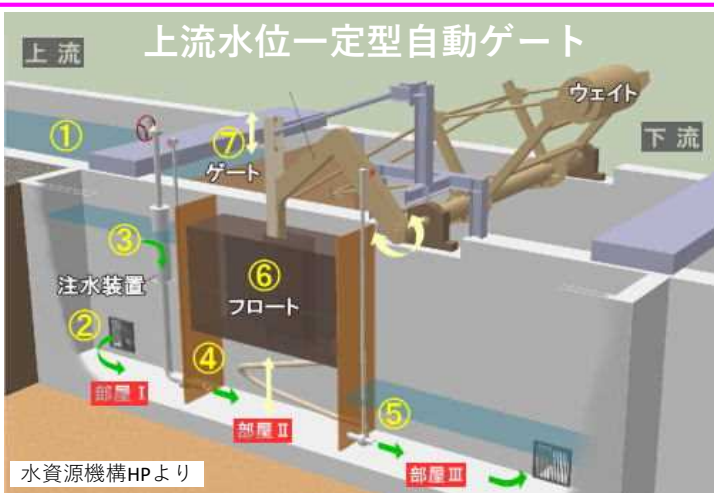
穴堰 円形分水工



- 用水はサイフォン形式で円筒中央部から湧出する構造となっている。
- 円筒の側壁に複数の孔が等間隔で開けられている。
- 側壁の外側には仕切り壁が設置されている。
- 分水先の3つの水路に対し、側壁の孔数分の用水が供給される仕組み。

(特徴的な施設) 上流水位一定型自動ゲートによる管理の省力化

- 水路の流量が限られる中、標高の高い支線水路に分水するためには幹線水路に調整ゲートを設置し堰上げが必要。
- 他方、豪雨・洪水時には、水路からの溢水が生じないように、堰上げゲートを速やかに開放し流水を流下させる必要。
- 上流水位一定型ゲートは、通常時の堰上げと降雨時等の開放を自動で行う省力型施設。



○ ゲート上流側の水位を一定に保持。

- ・ 水位低下すればゲートが自動で下がる
- ・ 水位超過すればゲートが自動で上がる
- ・ 設定水位の変更が可能

○ メリット

【平常時】

分土工への堰上水位確保のための こまめな現場調整が不要

【降雨時】

設定水位超過分の 流水を迅速に流下



添川頭首工

記念碑

昭和三十六年六月二十四日から三日間にわたり旭川上流藤倉観測地点二百五十七、一耗におよぶ豪雨出水があり手形堰ならびに穴堰土地改良区の堰堤が流失するとともに穴堰の用水路が欠損し田への引水は全く不能となった。よって水源を同じくする両堰連合して復旧をはかり秋田県営事業として恒久的な頭首工築造工事に着手した。

これが総工費三千三百五十余万円昭和三十三年三月完成し耕地七百七十余町歩の用水を確保した。

ここに碑を建てて再び災禍がないことを望むとともに関係者の労を記念するものである。昭和三十三年四月十一日

秋田市旭川筋両堰土地改良区連合



県営用排水施設整備事業 添川地区
竣工記念碑

沿革の概要

添川頭首工は秋田市添川の東方を流れる一級河川雄物川水系に設置された頭首工で、450haの水田にかんがいする施設である。

本頭首工は、昭和30年手形・穴堰頭首工が豪雨により被災し、昭和32年災害復旧事業により、統合築造されたのが30年余りを経過した今日、頭首工本体及び護岸・護床の荒廃が著しく、取水に支障をきたしている状況であった。

加えて、治水上の問題もあり昭和56年度に県営ため池等整備事業（用排水施設整備事業）として、新規採択され昭和62年度に総事業費519百万円をもってここに完成した。

この事業の完了に伴い、用水不足を解消し営農の合理化と生産性の向上による地域農家の無限の繁栄を祈念し、ここに本事業の概要を記し後世の証とするものである。

昭和62年11月



外旭川地区

新生産調整推進排水対策特別事業 外旭川地区
流露豊穰



事業の沿革

外旭川地区は、秋田県の中央に位置し県都秋田市の市街化区域の東方に隣接する一団の穀倉地帯である。

地区内は明治43年～大正7年に耕地整理事業により10a区画に整備されているものの、地区内の幹・支線排水路は土水路であり、断面が狭く水路底も浅いため、地下水位が高く降雨時には湛水被害や法面の崩壊が顕著な状況であり慢性的な排水不良地帯となっていた。このことから昭和61年に県営新生産調整推進排水対策特別事業として採択され、平成8年度に総事業費4億7千7百万円をもって完成した。

この事業の完成に伴い、営農の合理化及び生産性向上による地域農家の無限の繁栄を祈念するとともに、ここに本事業の概要を記し、後世の証しとするものである。

平成9年3月

秋田市旭川筋土地改良区 理事長 鈴木伝八

■ 多面的機能当該土地改良区の受益地において多面的機能発揮の取組を行う組織は5組織。

